WORK
MEISTER M1 3P

元はレーシングホイールとして生まれ、市販品としてデビューしたのは1995年という長寿モデル。このマイスターM1は3ピース構造による多彩なサイズ設定が特徴。ポルシェ用として考えると18、19インチがある。

ボディとホイールの融合で
完璧なる“ワイド”は完成する。

WHEEL :
WORK MEISTER M1 3P ¥49,000～¥104,000 5.0J×16～16J×19
実装着サイズ：F=9.5J×19 R=11.5J×19

BODY KIT :
FASTES RACING FIGHTER 997 PORSCHE
WIDE BODY KIT

Text : 中三川大地 Daichi Nakamigawa
Photo : 小林邦寿 Kunihisa Kobayashi

持っている。ならばとその手法を、ストリートカスタムや、クラブマンレーサーが取り入れ始め。

そのひとつ、ファステスカーズが具現する水冷ポルシェに注目したい。代表を務める元レーシングドライバーの西澤和之氏が、かつて自らが、SUPER GTやル・マン24時間などのレースで経験したポルシェ製レーシングカーの魅力を、ストリートへと投下してみせたワイドボディキットである。カレラ系をまるでGT3Rのように見違えさせるワイドボディキットを前に、つい食指が動く人も後を絶たないという。

一例としてこの997。ファステス・レーシング・ファイター・ワイドボディキットとして、前後のバンパースポイラーにサイドスカート、エンジンフード一体型ウイングスポイラー、そして極めつけの前後オーバーフェンダーが装着される。フェンダー幅はフロントで片側90㎜、リヤで100㎜もの圧倒的な出幅だ。この個体は純日であることが手伝って、まるでつい さっきポルシェワークスから出荷されてきたばかりのレーシングカーのようである。

そして、このフォルムを実現させるためのキモとなるアイテムといえばホイールである。ここまでの出幅となると、選べるホイールは限られる。かといってぶ厚いスペーサーで調魔化したくはない。

そこで出番となるのがワーク・マイスターM1である。マイスターM1自体は発売から20年以上も経つ長寿モデルだ。なのに今も最前線を突っ走るのは、レーシングイメージを彷彿とさせるM1直球のメッシュデザインが、不変の魅力を持つからか。ポルシェ用としては18インチ19インチの範囲で、下は8・0Jから上は9・5Jまで、豊富なサイズ設定である ことも大きな要因だ。先のワイドボディキットにはドンピシャの銘柄といえる。好みのタイヤ銘柄やサイズ、さらにブレーキとのクリアランスに合わせ、0・5J刻みでホスクラオーダーすることもできる。

この個体を例にとると、フロント9・5J、リヤ11・5Jの19インチ、タイヤサイズにしてそれぞれ235／35、295／30だった。フェンダーとの関係性を見る限りドンズバの設定で、ディスク面が奥深くに潜むように立体感も演出。

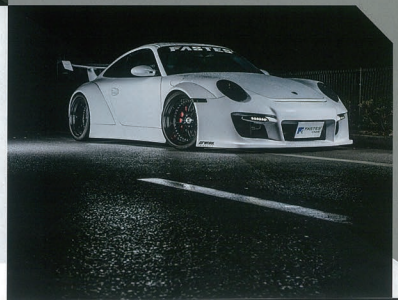
極太タイヤは走りを支える上でも有効だ。これらはドレスアップではなく、愛車をチューニングする際の機能部品と考えたい。それに見合う“強さ”が、ボディキットやホイールには備わっているのだから。

オーバーフェンダーはいつの時代も男のロマンである。特にポルシェがそうだ。メーカービルドのレーシングカーが持つ、必要から生まれたオーバーフェンダーの存在感は、人を洗脳させるほどの魅力を

ワイドな ムーブメント。

911 Type997
×
WORK
&
FASTES CARS

問い合わせ／ワーク 東日本コールセンター ☎048-688-7555
中部北陸コールセンター ☎052-777-4511
西日本コールセンター ☎06-6746-2859 www.work-wheels.co.jp
車両協力／ファステスカーズ ☎03-3774-1501 www.fastescars.co.jp



FASTES RACING
FIGHTER
WIDE BODY
STYLE

フロント90㎜、リヤ100㎜もの出幅を持つフェンダーに興味をそそられるが、このキットの真骨頂は大型フェンダーを自然な形でないだ一体感だ。さすがポルシェ製レーシングカーを知り尽くした男の仕事である。